

市長日記

「座右の銘」

4月3日号のこのコーナーで、高倉 健さんについてふれましたが、彼が心に刻んでいた言葉は、「往く道は精進にして、忍びて終わり、悔いなし」だそうです。人生には箱根駅伝のような復路はありません。この言葉は、しっかり生き切ることの大切さを我々に伝えています。実に素朴で、語り尽くされた感のあるテーマですが、高倉 健さんが心に刻んだ言葉となれば話が違えます。まさに、「座右の銘」も人によりけりです。

ちなみに、私の座右の銘は、「正々堂々、驀直進前」です。この言葉は、鎌倉時代に「元寇」が起きたときの、ある出来事が故事成語になったものです。当時、この国難の解決を託された23歳の若き執権 北条時宗は困惑し、僧侶の無学祖元に救いを求めたところ、「莫煩惱（煩い悩むことなかれ）」と一喝されたそうです。「上に立つお前が揺れ惑ってどうする。前に突き

進め」と諭されたのでしょう。

私がこの言葉に出会ったのは、初めて新発田市議会議員選挙に打って出たときです。応援に来てくださった元法務大臣の稲葉 修先生が、私を見るなり大洋紙を持って来るよう言われ、書かれた言葉が「正々堂々、驀直進前」でした。

当時、若さ以外に何も無い私が立候補することは、秩序を乱すことであり、「無謀だ」という噂さえ聞こえてきました。そんな切ない思いをしながらも前に進もうとしている私の姿に、北条時宗を重ねたのかもしれない。おかげさまで、4位当選。27歳の若さでした。私は10回の選挙を経験しましたが、あの戦いが一番つらく、記憶に残るものでした。あのときの心境と感動を忘れまいと、これを座右の銘にしています。



エフエムしばた FM76.9MHz

みんなのラジオ

【問合せ先】エフエムしばた (☎ 23-8800)

「しばた1年生」新人パーソナリティの滝沢 周です！

皆さんこんにちは！エフエムしばたの新人パーソナリティの滝沢 周です。4か月前に新発田に引っ越してきたばかりなので、番組内の中継コーナーで、市内各地へ足を運び、季節の情報やお出かけ情報を届けつつ、新発田のことを勉強している毎日です。

いろいろな所へ取材に行きますが、せっかく取材させてもらったのに私の力不足でうまく伝えられなかったり、大雪が降ったときには、交通機関の乱れを伝えるために新発田駅周辺で吹雪のなか中継したりと、楽しいことばかりではありません。

そんな中、先日、あるイベントにお手伝いとして参加したときに「滝沢くん、いつも聴いているよ」と声をかけてもらいました。今の私にとって、番組を聴いてく

ださっているリスナーの方に応援してもらえることが一番うれしいことです。ぜひ、取材やイベントなどで私を見かけたら、気軽に声をかけてください。

また、毎週日曜日の午前10時から午後0時50分まで、先輩パーソナリティの加藤恵里花と生放送でお送りする番組「769サンデー」を担当しています。お出かけ情報が満載ですので、こちらもぜひお聴きください。



▲「やろもち作り体験」を取材中の滝沢 周さん

エフエムしばたで放送中
新発田市の番組

■新発田市情報BOX (毎日3回)

- ① 7:50 ~ 8:00
- ② 12:50 ~ 13:00
- ③ 18:50 ~ 19:00

■新発田市情報ランド

- 毎週金曜日 15:30 ~ 16:00
毎週土曜日 9:00 ~ 9:30 (再放送)

キラリ★しばた人

写真や映像は、言葉以上に
説得力がある表現媒体です

—— 吉原悠博^{ゆきひろ}さん

3月に発表された「第20回文化庁メディア芸術祭」のアート部門で、市内で写真館を営む吉原悠博さんが優秀賞を受賞しました。2000点以上の応募作品の中から選出された吉原さんの作品「培養都市」は、東京都心から柏崎刈羽原子力発電所までの送電線がある風景を撮影した動画を、約17分間の映像作品にしたもの。

— 受賞した感想は？

最終選考に残ったという連絡を受けてから、受賞作品の発表まで3か月ほど期間があったので、諦めかけたこともありましたが、受賞を目的に作品を作ったわけではありませんでしたが、やっぱり受賞を知ったときは嬉しかったです。受賞してから、賞の大きさを徐々に実感しました。

— 「培養都市」を製作したきっかけは？

東京で消費される電力の3分の1が新潟で作られていることを、東京の多くの人は知らないし、自分も東京在住の頃は知らなかったんです。それで、これを視覚化したいと考えたのがきっかけです。

— 吉原さんにとって写真や映像とは？

言葉以上に説得力がある表現媒体です。実家にあつた古い写真を通して、先人たちが何を見てきたのか、その時代がどうだったのかを知

▲東京で働いていた頃に、実家の写真館で見つけた7万枚以上の古い家族写真に魅せられて写真館の仕事に興味を持ったと話す吉原さん

りたくなりました。今もその気持ちは続いています。

— 今後の抱負は？

今考えているのは、日本の海岸沿いのまちを、沖縄から北海道まで北上しながら撮影していきたいと思っています。また、新発田歩兵第16連隊が行った戦地を巡って写真を撮ってみたいとも思っています。



▲吉原さんの作品の一部。都心で使われている電力がどこから来ているのかをたどるため、送電線を追って撮影しています

新発田や新潟への郷土愛を仕事や作品に込めている吉原さん。インタビューの中でも、身近なものの根拠や歴史を知ることが大切にする思いが伝わってきました。

市では、吉原さんの受賞を記念して、受賞作品の鑑賞会を行います。詳しくは、14ページをご覧ください。